

第三者の評価



消費科学連合会
会長

大木 美智子 氏

「イオン 環境・社会報告書2009」を読んで

報告書を読んで、改めて様々な活動が副題「これまでも、これからも、お客さまとともに。」のとおりに着実にこなされていると感じました。環境や社会に関する問題では一企業の努力だけでは限界があり、消費者や従業員、取引先などを含む多くのステークホルダーの協力が不可欠です。正しくは「お客さま」だけではなく「ステークホルダーの皆さまとともに」なのでしょう。

「挑戦2008」のカーボンフットプリントの取り組みでは、生産者の全面的協力がなければCO₂排出量の把握はできませんし、省エネの取り組みでは従業員の熱意が鍵です。レジ袋ではまさしく「お客さま」の協力が必要ですね。

それにしても、レジ袋無料配布中止店を2店舗から447店舗へ僅か1年で一気に拡大したことは高く評価します。消費者の利便が多少損なわれるとしても環境を守るために必要なことは敢えて行なうべきで、無料配布中止に踏み切ったイオンさんの決断に敬服します。

他社に先立って新たな施策に取り組むことには相当の勇気が要ると思いますが、その施策を長期にわたって継続するにはさらに大変な努力が必要です。報告書では植樹活動をはじめイオン・デー、リサイクルなどその状況と成果がわかりやすく記されており、感心しました。ただ、食品リサイクルループや廃食油の燃料化はグループ内の一部企業だけに留まっているようで、もっと広くグループ各社に広げて欲しいものです。

最後にエコストアの取り組み、素晴らしいと思いますが、郊外の大型店については社会・環境問題としてはどう考えるべきなのか、判断に迷います。環境や高齢化を考えた脱車社会の推進という問題や、地方都市中心部の空洞化の問題。環境改善や地域貢献という視点から、これらの問題の解決にもチャレンジされることを期待したいと思います。